

委員会名	自己点検者（委員長名）	①当該年度の活動内容の概要 （箇条書きで良く、参考資料は不要）	②委員会内での自己評価と問題点の抽出 （箇条書きで良く、参考資料は不要）	③次年度の改善方策 （箇条書きで良く、参考資料は不要）
入試委員会	高取和彦	<p>(1) 薬学科および生命創薬科学科のディプロマポリシーを見直し、決定した。</p> <p>(2) 指定校の要件等を見直しをおこない、各指定校へ通知した。</p> <p>(3) 経済的支援が必要な受験生に対して、出願前に奨学生採用候補者として経済的な支援を約束する「めざせ明薬・予約型奨学金」の出願要件を決定した。それにより18名の出願があり、3名が合格し、1名が実際に薬学科へ入学した。</p> <p>(3) 2023年度入学者選抜試験より薬学科の収容定員を変更し、募集定員を60名増やす方針が決定された。増員の目的の1つに地方での薬剤師不足の問題に貢献することが挙げられている。そのため、薬学部が設置されていない県の出身者で当該県に薬剤師としてUターン就職することを志す者を支援する地域枠入学者選抜方式の設置を検討し、大枠を決定した。</p> <p>(4) コロナ禍における入試の対策として ①共通テストおよび本学個別試験ともに濃厚接触者や体調不良者の予備試験室の準備など、事前準備を入念におこない、実施した。②本学個別試験ではコロナ感染者等のための追試験を準備し、実施した。</p>	<p>(1) 本学における学生の受け入れに関しては、定員を満たすことができ、本学の修学に必要な学力を備えた入学者を確保することができており、概ね適切に実施できている。</p> <p>(2) 学校推薦型選抜（公募制）試験および一般選抜試験の試験問題において、受験者の学力識別が十分にできるような問題の難易度になっているか検討する必要がある。</p>	<p>(1) アドミッションポリシーを検討し必要があれば改定する。</p> <p>(2) 指定校の要件等を見直す。</p> <p>(3) 受験者の学力識別が十分にできるような難易度の問題を作成する</p>